

2026年3月6日作成 Ver1

《情報公開文書》

顕性肝性脳症発症の予測因子として
肝臓体積と血清亜鉛を用いたリスク指標の有用性の検討

研究の概要

【背景】

肝硬変の合併症として、意識の混濁などを生じる肝性脳症があります。その前段階に自覚症状はないものの、精神神経機能テストを施行すると異常値がでて判明する、不顕性肝性脳症という状態があります。これは肝性脳症へ進展する前段階であり、転倒リスクや自動車運転事故のリスクが高くなるという報告もあります。精神神経機能テストは実施が煩雑であるため、外来通院チュの肝硬変患者さん皆に実施することは困難です。我々はより簡便に不顕性肝性脳症やその先の肝性脳症を予測するため、肝臓体積と血清亜鉛値に注目して研究を行っております。

【目的】

本研究では精神神経機能テストを実施したことのある肝硬変患者さんの肝臓体積や血清亜鉛値などの臨床データを用いて、将来的に肝性脳症を引き起こすリスクがどれくらいあるか検証することを目的としています。

【意義】

本研究により、簡便に将来の肝性脳症発症リスクを見分けることができるのではないかと考えています。

【方法】

精神神経機能テストを実施したことのある肝硬変患者さんのうち、観察期間中に実際に肝性脳症を発症した方がどれくらいおられるかを調べます。また肝性脳症を発症した方、しなかった方の肝臓体積や血清亜鉛値のデータを中心に臨床データとどのような関連があるか調べます。

対象となる患者さん

2020年1月1日から2025年12月31日までに当院で精神神経機能テストを実施された肝硬変患者さんを対象とします。

研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

- ・患者さんの背景（年齢、性別、肝硬変の原因など）
- ・血液検査データ・精神神経機能テスト結果・画像検査データなど

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

情報の利用開始予定日／提供開始予定日	
本研究は2026年3月12日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。	
あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。 ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。 あらかじめご了承ください。	
研究実施期間	
研究機関長の許可日～2027年12月31日	
研究実施体制	
研究責任者	所属：長崎大学病院 消化器内科 氏名：福島 真典 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095 (819) 7481
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長
問い合わせ先	
【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】 長崎大学病院 消化器内科 福島真典（研究責任者） 〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号 電話：095 (819) 7481 FAX 095 (819) 7482	
【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療相談室 095 (819) 7200 受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）	